

宇宙開発利用専門調査会のとりまとめ方針(たたき台)

○我が国の宇宙活動は、これまで蓄積してきた技術開発の成果を、産業の国際競争力強化や利用拡大を通じた国民生活の向上に活かすべき段階。

○我が国の宇宙開発利用の自在性を将来にわたって確保するため、人工衛星及び宇宙輸送系を全体システムとして、設計・製造・運用・利用できる能力(人材、施設、情報など)を国内に維持する。

1. 人工衛星の開発・利用

(1) 多岐に及ぶ利用分野の中から、今後10年を見通した社会ニーズを踏まえ、広範かつ多様な利用が見込まれる分野に重点化。

①安全の確保(安全保障・危機管理)

- 情報収集衛星、地球観測衛星の利用
- 緊急時・災害時対応

②情報通信・測位

- 移動体通信、高精度測位のあり方

③地球環境観測

- 温室効果ガスやその吸収源の観測
- 国際協力の在り方
- 高性能センサ開発とデータ処理分析能力の向上

(2) 宇宙利用の拡大

- 衛星利用の拡大及び関連の研究開発のあり方

2. 宇宙輸送系

①H-2A ロケット標準型

民営化について

信頼性、経済性について

②今後の使い切り型輸送系

次代の打上げ需要の動向に対応した輸送系のあり方

③中小型ロケット

中小型宇宙輸送系のあり方

④将来の宇宙輸送系

3. 国際宇宙ステーション計画

計画の見直しへの対応

運用の効率化、利用の優先度について

4. 宇宙開発利用の産業化

宇宙産業が将来の我が国の基幹産業へと発展するための方策

5. 長期を見据えた基礎研究